

## 車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：大井町自治会

開催場所：大井町公会堂

開催日時：平成 28 年 5 月 11 日（水）19 時 00 分～21 時 08 分

参加者：自治会側【地域住民の方 18 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、伊藤行政経営部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、山内協働推進課係長】

### 内 容

#### ① 成岡大井町自治会長あいさつ

・お疲れのところ、お集まりいただきありがとうございます。市長さんには、ご公務のお忙しいところ、大井町のためにおいでいただきましたありがとうございます。市の幹部の方々もおいでいただきましたありがとうございます。大井町は島田市でも中心地にありまして、市役所も近いし、大井神社もあって自然もあって、非常に住みやすいところだと思っています。それでも、まだまだ市の方をお願いして、改善していかななくてはならないことがありますし、今夜は市長さんとじかにお話ができるまたとない機会ですので、忌憚のない意見を出していただきまして、市長に御答弁いただくということで、あらかじめ、皆さんからお聞きしたいことということで、何人からは提出をいただいていますので、そのほうもお返事をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

#### ② 市長からの市政報告

##### ■はじめに

・皆さんこんばんは。大井町はまさに、大井神社に守られた土地。私はいつも大井神社の宮司さんにお目にかかるたびに、神様の御加護がありますようにとあって、その言葉が、いつも、いつも島田を守ってくれている守り神様だなあとと思っています。それと同時に、島田の中心は、おび通りとかあちらではなくて、やっぱり大井神社が中心なんです。この大井神社が中心になって、この島田のまちがあるんだと私は思っていますので、少し観光客の流れだとか、そういうことにおいては、もっともっと大井神社を中心としたことを考えたほうがいいのかなと思っています。

・車座トークをはじめた理由は、お呼びいただく自治会は、いつもいつもお呼びいただいています。68自治会を全て回ることができていない現状の中で、私も地域にうかがって、地域の課題や地域の現状をきちっと見る。そして肌で感じてこれからの市政運営、総合計画に活かしていきたい。そして、直接お話を聞くことによって、私がやろうとしていることも皆さんに御理解いただける、そういう機会になったらいいなということではじめておりますので、よろしくお願ひいたします。

## ■市政運営について

・私がここに伺うにあたって、大井町の世帯数とか人口とか高齢化率とか、ちょっと調べてきました。それによりますと、大井町は人口が670人。これは3月31日現在のものです。世帯数は285世帯。65歳以上の高齢者の数は232人で、高齢化率は34.6%。15歳以下のお子さんは、74人で11%ということでした。市の平均は、29.2%ですから、それに比べると5%くらい高齢化率が高い。子どもの割合は13.8%ですので、いくら子どもたちの数が少ないという、昔からここにお住まいの方が多土地柄かなということがこれからもわかります。

・私が市長になった時に、4つのことをお約束して市長になったんです。

・一つは、「公平・公正で、市民の声が届く街をつくること」。二つ目は、行政のやっていることがわかるように、「情報の開示、情報の発信をしっかりとやっていきます」。三つ目には、これから島田市が単独で生きられる時代ではありません。周辺の市町、広域との連携、これをしっかりとやっていきます。四つ目には、人口がどんどん減っていく。日本中で減っていく。高齢化が進んでいく。要するに働く人の数が減って行って、税収も昔のように上がっていく時代ではなくなる、そういう時代にあつての財政というもの。今、自分に時代が良ければいいという話しではなくて、常に10年先の市政を見ながら、財政の健全化を図っていきたい。この4つを約束をして、実は市長になりました。私なりに一生懸命やってきているわけですが、世の中は、ものすごく変化が激しくて、例えば、私が3年前に市長になる時に、こんなに人口減少のことは、問題にされていませんでした。地方創生なんて言葉もありませんでした。でも2年前のあの日本創生会議の増田レポートをきっかけに、全国1,700ある自治体の896、49.6%が2040年には消滅してないんじゃないかというショッキングなレポートが出て、瞬く間に日本中がどうするんだ、もっと子どもの数を増やさなければいけない。もっと若い人を住まわせなければいけないということを競争する時代になりました。しかし、全体のパイが、今すぐ子どもを産む若い人が増えたとしても、あと30年くらい人口は減り続けていくという統計が出ています。

・島田市は、結婚してくださっている人たちは、平均して2人以上のお子さんを産んでくれています。そういう意味では、子育てしやすいまちだと思います。ただ、未婚率が高い。結婚しない人が多い。50歳までに一度も結婚していない人のことを、統計上は生涯未婚率という計算をします。それが今から10年位前に、13.6%を超えておりました。だから今、15%を超えているのではないかと。6、7人に一人は男性の場合、一生、結婚しない人たちがいる。女性もそこまではいきませんが、一生、未婚の方も増えてきています。それから、初めて結婚する人の年齢が、女性で29歳。男性で30歳ということですから、女性の場合、子どもを産みやすいのは40歳くらいまでです。そうすると3人子どもを産むのは、なかなか大変というのが、そういう時代になりました。これは、行政が単独で何とかなる話ではなくて、働き方の改革だとか、もっと早く結婚することの価値観だとか、そういう日本中が変わっていかなければ、変わらない課題もあります。そういったものを現実に今、島田が抱えていて、なおかつ、私が市民の皆さんのところを歩いていて思うことは、御高齢で一人暮らしの方が増えてまいりました。御高齢で夫婦だけという方もいます。また年金だけで暮らしている方、中には、生活保護の収入よりも少ないお金で暮らしている方も増えてきています。そういった中で、市民の命を守る、生活を守る、弱い立場にある人たちの生活をしっかりと支えるというのは、私は、政治の原点、行政がやるべきことの原点だと思っています。医療も介護も福祉も教育も子育てもそうです。だけど、それをしっかりとやるためには、一方で、しっかりと稼げるまちをつくっていかないと、その財源を確保することはできません。そうした意味で、行政の役割をしっかりと果たしていくと同時に、

この28年度、稼げるまちをつくるんだということで、産業支援センターをオープンしたり、新東名近くの内陸フロンティアや賑わい交流拠点や、金中跡地の開発等を今、進めようとしているところです。

・どのくらい人口が変わってきているのかという話ですけれども、この5年前とこの3月31日とちょっと比べてみました。この5年間で、生まれる子どもの人数は、年によって増減はあるものの、去年は722人の赤ちゃんが生まれていますけれども、この5年間でちょうど150人、生まれる子どもの数が減っています。毎年30人ずつ生まれる子どもの数が減っています。この次に成人式を迎える数は、1,035人だったかな。1,000人以上います。この20年間で300人以上減っています。それがまた拍車がかかることになる。一方で、高齢者の状況はというと、この5年間で65歳以上といわれる人の人数が3,188人増えました。1年に600人以上の高齢者が増えているということです。私はこれからの10年、地域の活力を維持することはすごく大事なことだと思っています。例えば、御町内の中で、役員になる人がいないよ、隣組の組長を引き受けられないよ、河ざらいに出られないよ、毎年毎年、みんなが役員をやらないと回らないくらいの状況になってきたよということが実は、ぼちぼちこのまちの中でも出始めています。そうした中であって、私は行政が単独で、昔みたいに行政に任せておけば何とかなるよという時代ではなくなって、地域の皆さんと一緒に地域の抱える課題を一緒になって解決していく。地域の皆様方に協力をいただいて、地域にできること、行政がやらなければならないこと、これをしっかりお互いの協力関係を密にして、まちづくりを進めていきたいなと思っています。

・我々は時代にあった公共サービスということで、コンビニで税金が支払えることや色々なことをはじめています。手数料がかかっても、それは市民の利便性のためにやらなきゃいけないなあって思っています。これからの公共サービスや地域づくりをしっかりとやっていく、一方で地域の皆さんが、自分たちのまちのため、自分たちの地域のために動き出そうとする、そういうまちをつくっていかねばいけないというふうに思っています。

・皆さんが良く御存知の森昌也先生。名誉市民でもあられたし、私は島田のまちの基本をつくった、基礎を作った立派な市長さんだと思っています。森昌也さんは昭和の28年に市長になられました。その時に、「市民の手による市民のための市政を実現するんだよ」ということをおっしゃっています。20年後に市長をお辞めになる時には、市役所ができ、クノールや紀文やネスレやいろんな大きな企業を誘致し、道路もどんどん広がっていった、その20年間で、量的にこのまちは発展してきた。でも本当にここに住む人たちが幸せになるためには、この量的な発展の上に質的な発展を遂げたまちでなければ、ここに住む人たちは幸せになれない。私はそれを目指してやってきたというお話をされて退任された。ちょうど森さんが市長になられて60年目に私は後を継ぎました。私は還暦ではないけれども、60年目にその役割を自分が引き受けたときに、やっぱり森さんの時代とは、森さんの時代は今日よりも明日の方が絶対良くなる。土地も上がっていくし、人口も増えるし、収入も良くなるし、でも今そういう時代ではない、まるっきり裏側から見た時代を引き受けた。それでも私は、目指す方向は、まちづくりの基本は森さんの時代と変わらないと思っています。そういう思いで、一生懸命やっています。

・ちょこっと紹介させていただくと、地域にできることというものの中で、いくつかの自治会がはじめているのは、放課後児童クラブを地元の皆さんが放課後の子どもたちを見ようということで公民館を使って、週に3日か4日なんですけれども、そういったことをはじめているところもあります。行政の方が車や保険やガソリンをみるということで、地域の足となる交通弱者の方たちがコミバスのバス停まで行けない、あるいは近くの買い物を手伝いたいということで、そういったバスを運転しようという地域もあります。一人暮らしのお宅に見守りしようと動いている地域も出てきています。そうした地域の課

題が、少しずつでも解決されていく、そういうまちを一緒につくっていききたいなと思っています。

・行政の役割も大きく変わりました。昔はどんどん人口も増えていくし、都市開発もされていきますから、行政は許認可を与えたり、管理したり、規制をしたりすることが行政の仕事だった。でも、これからの時代は、土地も余ってきます。空き家も増えていきます。行政の仕事は管理や規制ではなくて、いかに民間が仕事をしやすいようにお手伝いできるかということにかかってきた。だんだんと民間と行政（官）との境はなくなってくる。そういう時代です。ですから私も職員に、意識改革や仕事のスピード感や結果に責任を持つこと、そして市民の皆さんとキャッチボールができる、しっかりとそのやり取りをする中で、それから政策に積み重なっていくことを常日頃から話をしているところです。

#### ■市民会館と市役所の建替えについて

・1万人以上の方の署名を集めて、再建築の要望も出た市民会館でございます。しかしながら年間の稼働率が、本番でホールを使うのは、だいたい最近の5年間でみると、年間平均30日くらい。予行演習の日を含めても50日くらいしか使われていないという中で、今他にもお金のかかること、やらなければいけないこと、いっぱいあります。もう少し、市民会館は市役所を建て直す時に、もう一度合築するかどうかを考えてもいいんじゃないかなと思って、私は、今、暫くの間、更地にすることを決定しました。その事業が5月2日から始まっています。まだ外側の変化は見えません。5月の中旬には、地元の皆様方に詳しい説明をして、今月中に解体が始まってまいります。予定は一応11月のはじめまでですが、できれば帯まつりに間に合うように何とか更地をしたいなと考えているところです。市民会館はそういう状況です。

#### ■新病院の建設について

・病院のこともたくさんご心配をいただきました。つい2、3日前も商工会議所の方々がお見えになって、病院のことを聞きたいよと。中心市街地に病院を病院を移すという話があったときには、地盤が危ない、液状化するといっって中心市街地にといったのに、今のところで大丈夫なのかというようなことをずいぶんご心配をいただきました。しかしながら、正確なデータを持って、お話をさせていただいても、あの場所は液状化はしません。岩盤までの距離があります。その間は粘土質です。粘土の中には砂は混じっていますけれども、液状化は下に砂があるときに、水と混じって吹いてくる現象ですから液状化はしないということです。これまでも35本のボーリング調査をしています。過去に。今年、あと8本また新たなボーリング調査をしています。こういった結果もしっかり見ながら、地盤を皆様に安心していただけるものにしていく。3月に実は設計業者のプロポーザルということで、1社あたり1時間ということで丸一日、市民の皆様にも200人近く来ていただいて公開プレゼンをしましたが、その時も、どの設計業者も地盤のことで課題があるとは言いませんでした。みんな地盤はなんとでもなる。その工法は、岩盤まで打つ工法やら、途中まで打っても支えられる工法や、あるいは地盤そのものを固める工法や、色んな工法があるけれども、その地盤のことは問題ではない。いくらでも対応はできるということです。

・病院は大丈夫でも、道路はどうなんだということですが、去年までは国道だったところでございます。国道というのは、道路を造る基準においては高規格道路といっって、一番頑丈な造りで造っています。そして災害時においては、いち早く、もし段差ができたり、ひび割れたりすれば復旧する箇所となって

います。3. 1 1の時の気仙沼。相当地盤の悪い日赤の気仙沼の病院は、道路も大丈夫でしたし、建物も大丈夫で使えました。うちの病院よりももっと地盤の悪いところでした。私は道路にヒビが入るとか、多少入っても、十分患者を運ぶのに問題はないと思っていますし、むしろ、家屋が倒れたり、電信柱が倒れたりして塞がることのほうが心配なのではないかということを思っています。そういったものもいち早く排除し、かつまた、新しい病院には、屋上にヘリポートを設置しますので、そういったこともあわせて、災害時にも対応がしっかりできる病院を造ってまいりたいと思っています。

#### ■医療制度改革について

・国は今、大きく医療制度改革というものをやろうとしています。2025年になると、団塊の世代の方々がみんな後期高齢者になります。今でも毎年1兆円ずつ医療費が上がっています。とにかくこの医療費を何とか抑えなければというのが国の命題でして、医療費もどんどん自己負担が増えていくし、病院や施設に入るよりも、在宅へ在宅へという流れが確実なものになっています。そうした中で、実は島田は入院できるところが市民病院一つしかない、そしてまた、市内の開業医の先生方も高齢化していて、往診に行ける先生方が、今いる先生方があと5年経ったら、往診していただけるかどうかもわからないというくらいの、課題が出てきています。ドクターの娘さんや息子さんもドクターだけれども、島田に戻ってきて開業してくれるというところまでつながってきていないという状況です。

・そうした中で、島田はこの4月1日から、「24時間の訪問看護ステーション」を始めました。これは、病院からご自宅に戻っても、療養されている方、医療が必要な方たちに、24時間必要があれば、必ず医師の指示書をもって特定の医療行為ができるナースがお宅まで伺って、医療行為をし、また入院が必要なら市民病院に入ってください。そういうための体制です。市民病院の北側に人間ドックをやる健診センターがあります。その3階に事務所を置いて、8人の看護師の体制で24時間の訪問看護にあたることを4月1日から始めております。

・また、医師の確保も、新しい病院を造ることと同じこと、それ以上に医師の確保が大事です。島田は京都大系の病院と言われてきましたけれども、京都大学の学生も、ほとんど関西圏の学生になり、かつまた教授がお前あっち行け、こっち行けと言える時代でなくなって、インターンの研修医をどこでやるかということを選べる時代になって、なかなか難しい。京都大学からははっきりと、静岡県内でみれる病院は県立総合くらいですよという話をうちの事業管理者が受けてきている。そうした中で、私は、浜医との連携を深めたいと思っています。これは県内唯一の医大でありますし、浜医はこの3月まで学長だった中村さんは、6、7年前から静岡県内の学生を比重を多く採ってきていて、来年から70人から80人のドクターを輩出することができるという説明を伺っております。しっかりと浜医との連携を深めながら、安定的に先生を派遣していただけるように、これからも努力していきたいと思っています。年に5、6回、2月に1回くらいのペースで大学を訪ねて、色々な島田の現状もお話をし、医師の派遣等もその度ごとにお願ひしています。医師の派遣は、2年も3年も先のことまで、色々とお話をしながらお約束をしていかないと、今すぐという訳にはいかないんです。そういうことを重ねながら、医師の確保についてもやっているところであります。

#### ■蓬萊橋周辺整備について

・蓬萊橋については、賑わいをつくるために、お休み処とか、何か物を売れる物品販売所を造れないかという話をずっといただいていた。なかなか、国土交通省の占用許可が難しいということで、これまで無理だったんですが、この3年間の要望活動と、また国土交通省の方も規制緩和ということで動いちゃって、ミズベリングという協議会をつくるならば、その協議会で皆さんと話し合った結果としての要望であるならば造ってもよいということをお話をいただきました。今月、そのミズベリングの協議会を設置いたします。できれば秋までにも結論を出してもらって、補正予算で対応してでも、来年の春には、蓬萊橋のところに休憩所と、ちょっとしたお土産を売れるような場所を造りたい。お茶を飲んでいただいて、一休みしていただける場所を造りたいと思っています。

・そこに勝海舟の銅像も置きたいと思っています。先日新聞にもあったと思いますが、すでに銅像はできて博物館に仮置きをしています。牧之原台地に幕臣たち800人が入って開拓をしたわけですが、その棟梁は中条景昭でした。しかし、中条景昭らをここに派遣したのは、勝海舟でございます。昨年、勝海舟の手紙が千葉県の方で発見されて、この牧之原の開拓団に3年は成果が出ない、そういう厳しい状況を送っている君たちへとにかく頑張れということで、熱い励ましの言葉が書かれている手紙も見つかりました。そんなこともあわせて、蓬萊橋のところにおいて、新たな観光の拠点を造っていきたいと思っています。

#### ■産業支援センターについて

・産業支援センターを島信の向かいにつくりました。年間に1,200件くらいの相談件数があったらいいなということではじめたんですが、実際には最初の半月（4月12日～27日）で132件の相談件数をいただいています。補助金だとかそういった経営の中身についての御相談、仕事を創めたいという創業、起業相談。あるいは様々な、税理士さんや中小企業診断士とかそういった方との連携をとりたいという連携の御相談、販路を拡大したい、新商品の開発をしたい、技術や品質の改善をしたいというような、様々な相談内容に、今、対応をしているところです。しっかりと地場の産業の支援を、企業誘致も大事ですけども、ここで商売をしてくださっている方々、経営をしてくださっている会社の体力が増すように、強くなるようにしっかりとサポートしていきたいと思っています。

#### ■おび通りのにぎわいについて

・おび通りの賑わいも島田の課題の一つであります。あそこができたものの、人の通りが戻らないということで、何とか使えないかということをお話をいただいています。しかしながら、一つの課題は、あそこが島田市道という市道に指定されていて、何かお店をやるとか、フリマをやるとかいうと、一件ずつ警察の許可がいるんですね。そういう状況の中で、なかなか、元気市だけは特別にみていただいていますけれども、できないという課題もあります。しかしながら、そういう課題があっても、あそこに賑わいを取り戻すための施策を打ちたいということで担当の方にも指示をしているところでもあります。

## ■熊本地震について

- ・この地震の教訓といいますか、この6月の補正で出したいと思うことがありますので、そのお話をさせていただきます。
- ・3. 11の時は、島田にも津波が来るんじゃないかとすごく心配された方がいらっしゃいました。今回の地震においては、家がつぶれて、下敷きになるのではないかとこの恐怖を多くの方が持ったのではないかと思います。震度7が2回来るとい地震は、これまでも初めてでした。耐震性というのは、震度6強とか震度7とか1回揺されることの耐震なんです。何度も揺されることの耐震ではないので、新しい耐震基準の合った家でも、何度も揺られる家はつぶれたんですよ。そうした中、島田は、4月の本震があったその日に毛布を800枚、現地に送る等、とにかくいち早い支援を申し出て、市民病院の医療チームも派遣をし、かつまた、眞鍋危機管理監を先頭にして、視察、支援をずっと継続的に1週間交替で今でも出しています。
- ・この地震で私が感じたことは、市内にまだ昭和56年以前に建てられた家があるということ、古い木造のお宅が、耐震診断をしていただいて、耐震性がないということであれば、補強の補助金も出しているんですけども、もう年だから地震が来てつぶされたらそれまでだと。それが命だと思ふよという方々もいらして、なかなか進んでいかないという現状がございました。しかし、今回のことを見ると、助けられる命は一人でも助けなければいけないということの中で、6月からの議会に補正で耐震補強の補助金を上げたいと思っています。一般と65歳以上の世帯と2通りありますが、両方ともこれまでの補助金に10万円ずつ足して、県内23市の中で一番補助率の高い耐震補強の補助金にしたいと思っています。それと同時に、家の中につくるシェルター、ベッド2つくらい置いて、あと備蓄なんかができるようなシェルターですが、大体30万円くらいでできます。それを30万円を島田がみようと思っています。これは耐震補強の工事をすると100万円、200万円掛かってしまいます。やっぱりいくら80万円の支援があったとしても、100万円、50万円近く出さなければいけない。そうした中で、家の中にシェルターをつくるということであれば、ほぼ30万円以内でできるシェルターですから、地盤を少し補強したとしても、自分の負担はほとんどないようなかたちで、わずかな額でやってもらえると思います。その屋内シェルターを年齢制限なしに、希望するご家庭全てにやれるようにしたいと思っています。56年よりも前に建てられた家というのが条件です。一度耐震診断を受けてもらうというのが条件です。新しい家の中というわけにはいきません。でも56年よりも前に建てられたお宅で、耐震性がないということであれば、それを6月の補正であげますから、7月1日からは受付ができると思います。是非そういったことも、ちょっと周りの人にも伝えていただいて、できるだけ寝ている間は、当然昼間でもそこにもぐりこめば、家がつぶれても自分は助かるというものをやっていきますので、周りの方にお伝えください。
- ・耐震ベッドというのも支援の対象にしたいと思います。こちらが20万円出す予定ですが、ベッドの四隅に柱を建てて天井に屋根を作って、これが耐震性があるもの。ベッドに寝ている限りは、寝ていても押しつぶされないというようなものでございます。こうしたことも合わせて、約1,200万円くらい6月の補正で上げようと思っていますけれども、至急この手当てをして、市民の安心、安全を図っていきたいというふうに思っています。
- ・これまで、行政って何かにつけて当初予算に載っていないとなかなかできなくて、1年先になっちゃう。今、私が思うことは1年先の予算編成に間に合わないということが多くありました。補正であげるものは緊急であげるものしかあげられないよ。それはもう変えました。私は今年、議員にも職員にも年度の途中であっても、補正でもやらなければいけないことは対応することで話をしています。ですから、蓬莱橋のお休み処も補正でも対応しますし、今回の熊本地震を教訓とする補助金の件についても、耐震シェルターの件についても、補正でいち早く補正で対応したいと思っています。そうした様々な点で、

行政は今大きく変わっています。是非そのところも市民の皆様方にご指導いただき、教えていただきながらしっかりと民間の感覚、市民の皆様の感覚を身に付けた行政が、そういう経営ができるようにがんばっていきますので、また御意見を与えていただければありがたいと思っています。

#### ■待機児童について

・島田市も待機児童といわれる保育園に入れないう待機児童が、この3月のはじめの時点で、27人おられます。しかし預けられれば、預けて働きたいんだというお母さんたちを含めれば、もっともっと多くの人数のお母さんたちが保育園を要望していると思います。そうした中で、島田の保育園は3歳以上の子どもは待機児童がいません。問題は育休が終わって子どもを預けたいという0歳児、1歳児の子どもたちの預かるものです。これは子ども3人について保育師1人を置かなきゃいけないんですよ。3歳以上だったら15人とか20人に一人おけばいいのだけれども、とにかく保育師の数がたくさんいる。スペースもいるわけで。なかなか小さいお子さんの定員が増えていかない。保育師が足りないということでそのところに待機児童が出ている。金谷と川根は待機児童はいません。0歳児でも入れます。問題は旧市街、六合、初倉です。こういう状況の中で、私は平成29年度には、なんとしても待機児童をゼロにしたいと思っています。29年度の途中にはゼロにしたいと思っていますので、29年度中に0、1、2歳児の小さなお子さんを預かる保育園をできれば2箇所造りたいと思っています。一つは向谷のたこ公園のところ。定員が60人プラス、その兄弟姉妹も見るということで、70人から75人くらいの定員になります。同じくらいの規模で、やっぱり赤ちゃんを60人くらい預かるところを六合地区にできれば造りたいと思っています。あちらは若い人の数がどんどん増えてきてまして、藤枝からどんどんこちらの方に入ってきています。島田に来れば保育園に入れるよということであれば、やっぱり若い人たちはしっかりと移り住んでくれると思っていますので、何として待機児童を減らすということを今、命題にしています。これの市政の根本である市民の生活を守る、弱い立場にいる人たちの生活を守るという弱者救済の中の一つは、やっぱり子育て支援だと若い人たちへの施策だと思っていますのでここをしっかりとやらせてもらいたいと思っています。

#### ■放課後児童クラブについて

・放課後児童クラブの待機児童は保育園の待機児童よりも増えています。同じく3月のはじめに私が担当の部長から聞いたときには、125人も待機児童がいるというのです。去年の同じ時期には、わずか4人でした。今年は市内の伊久美を除く全小学校に放課後児童クラブを作ったんです。定員も増やしました。子の一年間努力してきたのに、まだ125人も待機児童が出るということは、ちょっと予想以上の待機児童の数ということでございます。今、一小、二小、四小、金谷小、初倉、初倉南、全部、放課後児童クラブを増設するという対応をしています。今までは教育委員会にお願いして、学校の先生に協力していただかないと、なかなか放課後児童クラブは開設できなかつたんです。教育施設は市の施設ですから、空き教室は放課後児童クラブに使わせてもらうよということでもしっかりとお話をさせていただいて、今、空き教室を放課後児童クラブに変えていく、そのペースを速めようとしているところです。ただ問題なのは、放課後児童クラブはスペースができては指導員が足りないんです。午後2時くらいから6時半くらいまで子どもを見てくれる人を探している。本当に働きたい人は、朝から夕方まで働きます。午後だけでもいいよ。しかも夕飯時にかかる6時半まで見てくれるということ、子育て中の若い人の

中にはいません。もう子育てが済んだ方、あるいはシニアの男性の方たち、こういった方たちに是非、自分の健康を兼ねて子どもの遊び相手になっていいよという方がおられたら子育て応援課というところが窓口になってますので、毎日じゃなくて結構です。週に一日でも二日でもいいので、子どもの相手をしていいよという方がいらしたら是非お願いしたいと思います。時給は確か900円か950円位なんです。指導員は1,000円いっていると思いますが、指導員でないお手伝いの方は900円か950円です。その時給で働いていただけたらありがたいと思っていますので、是非、放課後児童クラブの方も御理解をいただけるとありがたいなあというふうに思っています。

#### ■公共施設マネジメントについて

・市は合併を重ねて、ものによっては3倍も施設が増えました。おおると同じような施設は、夢づくり会館もあるしチャリムもあるし、そして今壊そうとしている市民会館もあるという中で、これから島田も人口が少しずつ減っていく中で、この公共施設をどのくらい持っていたら維持できるのかということが大きな課題になりました。そして昭和の40年代の終わりから50年代の初めに学校も次々と建てられ、色んな施設もその時期に、道路もそうです。建ててきていますから、このメンテナンスを長寿命化しながら、できるだけ手入れをしながら、長く使えるように、一時に集中して建て替えが行われないように済むようにということで、今、公共施設の再配置計画とか色々な施策をうっているところです。二小も放課後児童クラブの増設で御協力をいただいでいて本当にありがたい限りです。様々なかたちで子どもの数が減っていく状況にあつてのこの地域で子育ての地域ぐるみですということについては、是非皆様方にも御理解をいただきたいなと思っています。

#### ③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■放課後児童クラブについて</p> <p>放課後児童クラブのお話は、ボランティアだと思いましたが、時給900円をくれるんですか。それは準職員みたいな扱いになるんですか。</p>	<p>●一応登録をしていただくかたちになると思いますが、もちろんボランティアで気が向いた時だけ行くよというのでもいいんですけども、私どもとしては、この日は何人見てくれる人がいるという方が計画が立てやすいです。</p>
1-2	<p>■そういう扱いにしたいということですか。</p> <p>時給ということですが、私たちは後期高齢者ですけれども。年齢は問わないということですか。</p>	<p>●そうです。昨日も新聞に出ていたと思いますが、焼津はシルバー人材センターが放課後児童クラブを作ったですよ。あそこは平均年齢は相当高いです。年齢は問いません。元気に子供の相手をしていただければ本当にありがたいと思っています。</p>
2-1	<p>■熊本に地震に関連して</p> <p>熊本は震度7が2回来て、今までは私どもは、海洋型のトラフで一発で終わるだということで、大体避難所を開設するのは、数日後だという気持ちでいたんですよ。学校の安全を確認して、それから避難所が開かれるよと。一方では、避難所運営訓練を</p>	<p>●しっかりとマニュアル化されています。</p> <p>私どものところに来る地震と、熊本地震との違いです。活断層による地震でしたから、被害は局所的かつまた揺れも数十秒程度だったと思います。我々のところに来る地震は、東海地震にしろ、南海トラフ型の地震にしろ、海溝型の地震ですから、揺れる時間は大変長くなります。東海地震で約3分。南海トラ</p>

	<p>毎年やっておりますが、実際に地震が起こった場合に、皆さん島二小に殺到すると思うんです。特に今回の場合のように余震が怖い場合には、実際に避難所が開かれる手続きがマニュアル化されていないし。</p>	<p>フだと、3. 1 1の時には4分から5分揺れたと言われてますから、激しい揺れに長時間、逃げるにも這うにもままならないというような揺れに襲われるということですから、まずは動かないというところから始めないといけない。来る地震の規模や揺れ方が全然違うということが一つ。避難所の運営ですけれども、私どもは体育館などといわれるところの耐震性はしっかりしているわけですが、それでも被災したら、一級建築士の応急危険度判定というものをします。この応急危険度判定というものを、建物が余震に耐えられるか、こういった非構造物といったものが落ちてきて被害を受ける危険はないか、こういったことが判定された後に避難所を開設してもいいですよという許可が出ています。その鍵は学校長も持っているし自治会も持っていると思いますが、避難所開設は皆さん訓練されているとおり、ワーと入っちゃたら通路もできないし、いろんな混乱がおきますので、先に避難所の中に通路を指定したり、お年寄りはこちらにおこうとか、町内ごとにご近所さんごと集まろうとか、いろんなことを区切ってそれから人を入れると思います。</p>
2-2	<p>■それは方法としてはわかっていますけれども、時系列的に言いますとね、熊本の場合には地震があって、すぐに避難所に行きましたよね。一夜を明かしましたよね。島田の場合、島二小ですよ。職員の派遣とか建物の診断とか、そういったものでOKになるのは最短でどれくらいの時間なんですか。</p>	<p>●時間のことはなかなか言えないと思います。</p>
2-3	<p>■結局、そこで混乱が起こると思うんですよ。みんな二小に行っちゃおうと思うんですよ。</p>	<p>●現実にはそういうことが起こりうると思います。なぜ熊本はそれができたかという、ほとんど地震の体制がとれていませんでした。</p>
2-4	<p>■逆にね、2、3日経たないとあそこはオープンにならないよという概念で我々はいるわけです。当面2、3日は皆さんでしのいでくださいと。あそこに集まるのは、一応建物がOKになって、色々な条件が整ってからだと思っているんですね。そのギャップが問題かなと思います。</p>	<p>●それと同時に、体育館で送れるキャパシティは大体200人くらいです。</p>
2-5	<p>■二小学区の場合は、教室まで、大井町の場合は教室なんです。熊本の場合も廊下や教室なんですよ。大混乱なわけですよ。この辺は直下型の地震じゃないから海溝型の地震だから、全然状況が違いますが、それでも熊本の例があるから、みんな頭に入っちゃって。避難所に突入すると。壊れてなければ家にいなさいと言ってきてけれども、余震を怖がって、直下型だから2回強かった。海溝型は一発目が大きいと思っていますけれども。今まで起きたことがない想定外のことが起こりますから。</p>	<p>●できるだけ早くに開設できるようなこと、それからやっぱり、家が壊れている人住めない人がにげる場所であるということとかそういったことをアナウンスしていきたいです。 ●今地震の話をしていただいたので、浜岡原子力発電所の話もしないといけないと思っています。浜岡原子力発電所の再稼動については、今後も一切認めないという立場をとって回答をしています。報道機関によっては、どういう条件が整えば認めるのかとか色々なことを聞いてきます。しかしながら第一に、浜岡原子力発電所は、地下に活断層がある恐れがあること。使用済核燃料のことが、今でも7割近くのものが入ってしまっていて、それが再稼動されなくても課題</p>

		<p>である。私が一番心配するのは、高いところに電源の確保とあって、2次電源をつくったりしています。しかし、電源が確保すれば本当に冷やし続けられるかといったら、3. 11の時の地震は、本当に津波だけが原因だったのでしょうか。私は津波よりも先に地震の揺れによって配管とかそれがダメになっていて、電源が通じていたとしても無理だったのかという可能性もあると思っています。こういう色んな可能性を考えてきますと、私はこの5年間、電力も足りなくないわけですよ。十分今やっつけている。そういう中でやっぱり島田市民の命を必ず守れるという確信がないかぎり浜岡原子力発電所の再稼働は認めないということを決めています。</p> <p>・原子力災害は単独で起こる場合と複合で起こる場合（地震と合わさって起こる場合）と2つの避難方法や避難計画というものを持っています。今単独で起こるほうしか発表していません。しかしながら、一番最初に逃げるのは地元の4市。恐らく北の島田を通して逃げると思いますが、風向きにもよると思いますがね。この人たちが逃げてから島田は逃げる計画です。それこそみんな避難所に押しかけると同じくらいに、なかなか難しい計画になっています。そういう現実の中で、今、再稼働を認めることは私としてはできない。ただ、最終的に決めていくのは国なんです。私どもがいくら反対しても。首長の意見を汲み取ると知事は言ってますから聞いていただけたらと思いますけど、知事や総理大臣の判断が決定することではありますけれども、私の立場からは再稼働は認めないということで今も、これからもやっつけてまいりたいと思っています。</p>
2-6	<p>■時系列的には、若干異なるかもしれませんが、基本的には島二小が避難所として使えるよということについては、市の方から何らかの情報が入るという理解でよろしいですか。</p>	<p>●それは、応急危険度判定士がすぐに動いて、ここは大丈夫だという確認を出すことになっています。</p>
3	<p>■今、島田市の財政が大変厳しい中、この春、島二小の子どもの歓送迎会を主催しまして、老人クラブとふれあいの会というものを開いたんですけども、大井町の新入生は4人、卒業生は3人。我々の世代は60人の同級生がいました。隣の宮川町では新入生が1人と聞いています。子どもの人数が少ないということは、島田市における経済のお金の動くことも少ないということ。経済の活性化にはつながらない。消費が伴わないから。子どもの数や人口を増やすために、マンションだとか、人口を増やすためのゼネコンを島田の経済の活性化の足しになる、人口増加になるとか、そういうことを考えてやったほうが一番、手っ取り早いと思うが。婚活の問題もあると思うが、子どもの数が増えないことには、高齢者が医療などお金を使うにも、実</p>	<p>●経済の活性化は人口増に尽きる。まさにその通りだと思います。若い人は仕事があって住むところがあれば、そこに人が集ると思います。今、大学を出た人たちは、事務職を多く求めている、製造業とかを敬遠する傾向にあります。工場の誘致がすぐに若い人たちに移住につながるかということ、そこも課題があると思っています。若い人たちに、選んでもらうためには、教育だとか子育てだとかしっかりやっつけていかなくてはならないと思っています。それと同時に新たな施策を持っていかなければいけないと思っています。今、ヨシコンが街の真ん中にマンションを建てていますが、これからの時代、空き家とか空いたアパート、マンションが増えてくるわけですよ。これまで市は市営住宅を造って若い人や低所得者の方に入れていただいていたんですけども、でも物を持ってそこからまた老朽化がはじまりますし、一方で空き家はたくさん出てくるわけですから、これからは行政が市営住宅を造るのではなく、民間のアパートやマンションを</p>

際に元気な30代、40代の家族がいなければ市の財政が苦しくなるのはあたりまえなので。人口を増やして、ある程度島田市の経済を活性化することで手っ取り早いのは人口を増やすことに尽きるじゃないかなと思います。

行政が家賃補助して皆さんに使っていただくという政策の転換もしていかなくはないかと思っています。さっき言ったような待機児童をなくして、島田は住みやすいところだということを知ってもらうこと。皆さんあまりご存じないかも知れませんが、島田は県内で一番離婚率が低いまちです。持ち家率も一番です。軽犯罪率の発生率は県内で2番目に少ない。離婚率が低くて、みんな持ち家で、軽犯罪も少なければ住みやすいまちですよ。

・また、皆さんが藤枝はいい。島田は元気がないとおっしゃるけれども、今の島田の状況は、今でも最先端だと思っています。藤枝は20年、30年経ったとき、やっぱりうちと同じような問題が生まれてきます。うちはお茶の価格がよかった頃、どんどん農業振興地域に指定して大井川土地改良区やそういったところの受益地になって、国や県からたくさんの補助金をもらって、いい時代を過ごしたですよ。その時商店街もものすごく潤って、七夕だって、肩が触れ合うほど混み合って、その頃は藤枝からも焼津からも金谷からも七夕に出てくるのが楽しみだった。その頃は藤枝は、水もないし、いい作物も採れないし、農振もかけられない。ところが時代が移り変わったら、我々のところは、その農振やら、受益地になっていることが足かせになって白地にできない。一方で、それがかかっていた藤枝は、比較的色んなものが造れる。時代には浮き沈みがあるかと思っています。今、これから次なる活性化とかまちのあり方を、島田は模索するスタートについているかと思っています。新しいかたちです。その新しいかたちを私は、行政のやり方もまちのづくり方も、その新しいやり方を実践するために自分が市長でいるんだと思っています。それはこれまでの行政のやり方にこだわらずに、前例にとらわれずに、民間の手法もどんどん取り入れながら、変えていく、それを自分の役割だと思っています。

●人口の増加については、仕事のあるところには人は来ます。当たり前のことですけど。人口を増やすには、そこに仕事がないと私はなかなか難しいと思います。そのために今、金谷地域ですけれども、内陸フロンティアということで、34haの農振除外をがんばっているところです。工場の誘致や賑わい交流拠点等をつくりながら、人が集る、雇用が生み出せる場をつくっていききたいということが一つです。雇用の場があって人が来るというのが一つ。働く場がなくても、優良な居住地で、勤めは静岡や浜松に行ったとしても、住むのは島田いいねと言って住んでくれる、そういう生き方も私はあるかと思っています。よそからここに移り住んでくださった方々からは、またとないすばらしいところだといってくれています。そういったところを、もっともっとアピールしていくことも大事な方向かなと思っています。いずれにしても、仕事とのからみもあって、人口が増えていくかと思っていますので、その受け入れ態勢を若い人たちが入ってき

		<p>たときに住みやすい態勢をつくっていききたい。今、県外から越してきてくれる人の場合には、確か 120 万円くらい補助金が出ます。東京に通ってくれてもいい、その通勤の補助も出します。駅前に駐車場を借りるならその補助も出します。そこまでして、島田に移り住んでくれる人たちを迎えたいと思っています。東京にもカウンターをもってですね、藤枝とも一緒になりながら、県とも協働しながら、移住・定住の方々を増やしていく、その努力もしているところでございます。</p>
4	<p>■自治会に対する補助金の総額はいくらになっているのでしょうか。</p>	<p>●自治会関係の補助金の額は手元に資料がありませんので、後日自治会長さんを通じてお知らせします。【検討事項1】</p> <p>●補助金の場合には、何年間という見直しの期間を設けています。補助金は最初の一步の支援でしかない。なぜ、自治会の補助金を見直したかという、その自治会が自ら動き出していくためのきっかけを作りたいこと。女性の方たちにも参画をしてもらいたいこと。小規模な自治会もありますので、役員も順番がままならないところもあって、そういったところは、これから自治会の再編というのも視野に入れていかなければいけないんじゃないかということも思っています。こうした様々な自治会の再編によって、コミュニティを維持していきたい、地域の活力を維持したいということのその一つの動き出すきっかけとして、今回自治会に色々な補助金制度を新たに作ったところです。細かな補助金の中身は担当に聞いてください。</p>
5	<p>■緑茶化計画のロゴマークについて、細い字体で弱々しいことと、色が薄いので、インパクトが弱いのではないかと思います。</p>	<p>●上品な色合いですけれども、旗にしてはためいている時には、色があせているようで、もっと濃くできないのかということは私も聞いているし、自分自身もそう思います。この次に旗を作る時には、色を強くしないといけないなと思っています。この字体も品はあるんですけども、色使いとか、線の細さ、太さでインパクトが弱いというご意見も、きちっと伺っておきたいなと思います。</p> <p>●島田市緑茶化計画は、お茶の振興もさることながら、お茶の街島田、緑茶の街島田というものを、地域ブランドとして島田のブランドとして育てていきたい。そのことによって、島田市民の自身と誇りをどんどん高めていきたいというのが目的です。来てくださる方も、大勢来て下さることを念頭に、この島田市緑茶化計画をやっています。国内に発信をし、海外には売れるお茶を作っていきたいということを思っています。</p>
6	<p>■市長さんの任期中には市民会館の建設はないと解釈してよろしいですか。</p>	<p>●私が何年やるかにかかっています。長くやれば当然造り直す時期も来るかと思えます。短ければないかもしれませんが。</p> <p>●ざっと見積もって、1,000人以上の規模のものを造ろうと思うと、70、80億円はかかります。市役所は今築53年です。市長室も雨漏りのあとだらけです。これから自主財源で投資をして雇用を生み出す、島田の活力を生み出すため、</p>

		<p>市民会館も暫く我慢して、他のものに投資をしていきたいというのが、私が考えた方針です。なぜそんなことを決めたかという、病院に 247 億円の予算をとっています。この半分を病院の会計から。半分は市の一般会計からです。合併特例債というのが使えるということになるので、平成 32 年までにできあがらないと、その対象になりません。市役所も合併特例債の対象にはなるんです。だから市民会館が耐震性がないと分かったとき、建替えるとしたら、市役所の建替える場所は、今の市民会館の場所だというふうに思いました。国の制度も今の時代にまだあっていませんから、今あるものを壊して新しく造るなら補助金が出るんです。でも壊すだけだと補助金はないんです。今、除去債という更地にするための起債ができるようにやっとなつたというところがございます。そういう中で、市役所を造る、それも合併特例債を使うのなら、平成 32 年までにやらなければいけない。病院と重なるということです。だから市役所の判断を遅らせました。いくら私が考えても、病院の返済と市役所の建設を両方合わせてやったら、財政的のほかに投資する余力が数年の間なくなります。病院の 247 億円のうち 50 億円は医療機器です。この医療機器は 5 年で返済しなければなりません。減価償却が早いです。建設費は 25 年や 30 年で返せばいいから、ゆっくりでもいいです。最初の 5 年ですごく返済が増えるんです。その時と市役所の返済が重なったら、市民のためにやらなければいけないその投資が我慢しなければいけなくなると思っています。だから市役所の建設は後回しにしました。合併特例債は使えなくなるけれども、その時々自分たちの身の丈にあったものを造ればいいし、市民会館のことも、そのときにもう一度考えたらいいと思っています。合築にするのか、おおりが古くなっていくのか、いろんなことを要素に組み合わせながら、その時考えればいいと思っています。</p>
7-1	<p>■この4月の1日以降、コミュニティバス、静鉄のバスの公共交通機関が非常に不便になったというお声を聞いています。例えば山間地にお住まいの高齢者。金谷から島田への移動。相当数の方から聞いていますので、これは要望ですが善処をお願いします。</p>	<p>●コミュニティバスの使い勝手が悪くなったというお声につきましては、基本的には、島田駅を中心としてバスが出るようになりました。これまで川口で乗り継がないと川根温泉までいけなかったようなものも、直通で川根温泉に行けるようなかたちになりました。使い勝手がよくなった部分も多くあるし、はなみずき通りを通るバスなどは、うんと増えました。しかしながら、接続が悪くなったとか、金谷から島田への移動が不便になったとかというお声も確かに聞きます。川根温泉から帰る時間帯が悪いとか、そういうお声も聞いています。これは陸運局の許可がないと、簡単な軽微な変更はできるんですが、少し大きく改編するには、来年の4月のものを今年の6月、7月に出さなければならぬというようなものがございます。市民の皆様のお声もいただいておりますので、それは真摯に受け止めながら、コミバスの再編を考えていきたいと思えます。</p>

		<p>●今、コミュニティバスは、予算として年間2億4,500万円ほど使っています。2億4,500万円コミバスに使って、使い勝手が悪い、時間が悪い、本数が少ない、乗っている人が少ない、いろんなことを言われています。これを福祉というような観点から4億円、5億円掛けてでも使い勝手がいいコミバスを市民の皆さんが望むのか、今のコミバスのキャパシティを維持しながら、そうじゃないところは、デマンドといって、乗り合いタクシーにするとか、あるいは地域に10人乗りくらいの自動車を行政の方から貸与して、保険をかけて地域の皆さんが、ちょっと運転をお手伝いしていただくようなかたちで、お年寄りたちの利便性のいいかたちでお使いいただくのか、色んな方法があると思うんですよ。コミバスにこれからもどんどんお金をかけて、もっと本数を増やしたほうがいいのか。</p>
7-2	<p>■本数を増やしてくれということではなくて、改編したことがPRできていないと思います。小さいワゴン車のPRもできていないと思います。昼間の時間がまばらになったということのPRがされていないのではないのでしょうか。</p>	<p>●PR不足だったということについては、もっと私のほうで努力しなければいけなかったと思って反省をしています。一方、伊久身は一日16往復ありました。これが12往復になったんだと思います。市内のほかの場所はだいたい8往復くらいです。今でも本数は多いんですけども、減ったことは間違いありませんので、ただ昼間のお客さんの少ない時間を外したんですけども、本数がなくなったということで、伊久身を大事に思っていないのかということもお話をされました。その利便性を高めると同時に、伊久身に多くの人が入ってもらえるような地域の活動も大事だろうと思いました。色んなことをあわせながら、コミバスが不便にならないように、もう少し色んな手段について、そして小さなバスについてもPRを重ねていきたいと思っています。</p>
8	<p>■島田にはお祭りだけではなくて、歴史的な文化的ないい神楽や出し物があります。伝統的な和文化を育むものだと思いますが、例えば和文化教育が何年前にあったように、その施策が見えてこないんです。</p>	<p>●和文化教育はずっとやっています。 ●島田は歴史的な文化や伝統的な文化を育んできましたし、例えば島田大祭と同じようなお祭りを藤枝でもやっていますけれども、全然足元にも及ばないです。我々の数十年の歴史にかなうものはないんです。その厚みは、島田大祭は、知れば知るほど日本全国に発信すべきお祭りだと思っています。昨年、静岡のお祭り家康公の400年祭にあわせて、日本のお祭りというものがありました。島田大祭も出場させていただきましたが、10のお祭りが日本中から選ばれた中で、その100年前、300年祭に出ていたのは島田大祭だけです。他の9つはこの100年間にできた新しいお祭りでした。島田のお祭りに誇りをもっていますし、こういったことを若い人たちに繋げていくということは、すごく大事なことだと思っています。和文化教育もずっと継続して予算もつけております。地育・夢育という予算を今年度700万円つけています。これを各学校に、それぞれの独自性のある、地域で子どもを育て、夢を持って子どもを育てるところに使っていただくということをやっています。これからも島田のこの歴史や文</p>

		化はしっかり繋いでいかなければならないし、それはこの街の誇りだと思っていますので、足りない点があればまたご助言いただいて、島田の文化力を維持していくということには力を尽くしていきたいと思っております。
9-1	<p>■市長のお祭りに対する認識が、広報によりますと参加人員が減っていますよ、各街の資金不足があります、この2点を市長が広報で取り上げていました。これに対して市としての実現可能な支援策はどんなことを考えていますか。</p>	<p>●島田のお祭りは、先ほどお話したようにものすごく大事な、全国に発信できるお祭りだと思っています。ただ、現実を見ると参加人数の不足も資金不足も免れない。なぜそうなったかという、やっぱり島田は昔からの名家があつて、スポンサーになってくださる方もいて、そういう人たちのバックアップも大きかったと思うし、商店街ももっと勢いがあつたから、まつり講もいっぱいできたと思うし、区画整理によって、新田やジャスコの跡地あたりなんかは、マンションの人がみんな入ってくればいいんだけど、そうでないとお祭りに参加する人数も減ってきて、五街なんかはよそから手伝ってもらわないとできないという状況になっていて、そういう課題は現実としてあります。守っていかなければいけないんだけど、これからどうやったらあのお祭りを維持できるのかというのは、地元のお祭りでやっていくのか、島田のお祭りにしていくのか、そのあたりのこともあると思っています。</p>
9-2	<p>■市長の認識は当たっているんだけど、稼ぐ街というのが究極の目的ですね。その稼ぐ街になれば、財源も出てくるし。300年も続いている祭りはないぞということを市長も力説されていたので、市の具体的なバックアップを聞きたいんですよ。</p>	<p>●市としてもできる限りの財源的なバックアップはしています。このお祭りは大井神社のお祭りで、しかも保存会があつて、実行委員会があつて、私どもは観光協会を通して、資金を支援する以外に直接的に力を出して、ここはこうしなさいはできません。3年前のお祭りの時に、もう人ももたない、お金ももたないと聞きました。だから終わったらすぐに次のお祭りについて何か始まるかと思つたら、シーンと静かになりました。その中で、1年前から準備をしたのでは間に合わないから、私の方から声を掛けさせていただいて、約2年前から実行委員会等に動いてもらって、今回のお休み処はどうしたらいいのか、本陣入はどこでやるのか、色んな課題があつて、そんなことをお話をしてもらおうということをやっています。そうしたことをやっても、なかなか行政としてどうするんだといわれても。</p>
9-3	<p>■行政の側方援助。</p>	<p>●側方援助といわれても、つまるところお金だと思いますよ。今回も昨年、お祭りの衣装を更新するんだということで100万円ちょっとお金を出しました。子どもたちの衣装も全部新しくしました。毎年ごとに予算を組んで、お祭りに必要な機材を新しくするとか、そういうことは行政もお手伝いできます。</p>
9-4	<p>■大祭のPRについて、県民手帳に載っていないんですよ。せめて県民手帳に県知事と仲がいいんだから県民手帳に載せてほしい。</p>	<p>●県民手帳は毎年やるお祭りが載っているんですよ。何年かに一度というのは、こちらからよっぽど言っていないと載らないんですよ。</p>
10-1	<p>■財政状況について、他の市との比較で、実質公債費比率、将来負担比率は平均より上なんですよね。経常収支比率、財政力</p>	<p>●経常収支比率というのは、出て行く先が決まっているお金が91%あるということです。一般会計が今年363億3,300万円ですけども、これに対して約9</p>

	<p>指数は1割以上県の平均よりも落ちているんですよ。ということは、島田市はどのような街なのかなあとと思っています。</p>	<p>割が、出て行くところが決まっている。企業会計もあわせれば760億円の予算規模ですが、一般会計の中のことで。その中で公債費比率といって、借金の返済とかがずっと長く続いているから、いっぺんに良くなったりということは難しいです。特に公債費比率は合併特例債とかは借りて数年は据え置きということで、そこで借金が増えていくということもあって、難しいところではありますが、少しでもこの経常収支比率を減るようにやっていきたいと思っています。財政力指数については、どれだけ自前でお金の調達ができるかということです。財政力指数が1.0を超えるところは地方交付税というものを出さない、国からもらえないんですね。この1.0を下回る部分について、国が地方交付税のようなもので措置してくれています。我々のところは合併を重ねています。もともとの島田プラス財政力指数が弱い川根なども今、入ってきているわけですよ。そういったことで下がってきているということもあります。実は島田は0.75以上の指数ですが、川根だけを見ると0.25ということもあります。川根本町さんはもっと厳しいと思います。川根も厳しいところですよ。そういったところと組んで一緒になってきていますから、御理解をいただければと思います。</p>
<p>10-2</p>	<p>■市債について、市長は13億円くらい減らしてきているよと。これは市長のすごい努力であると思います。</p>	<p>●目に見えるものをたくさん造るといことは、その裏で返さなければいけないものが増えていくということも事実です。そこを減らすというためには、目に見えるものを吟味していかなければならないということも事実です。これからの時代に、10年先に暮らす人たちも自分たちの判断で新しいことがやれるという財政運営がなければ若い人たちは住めないと思います。だとしたら、今生きている自分たちのやりたいことは、自分たちの財布の中で何とかできるように努力しなければいけない、そういう思いをもってやっています。</p>
<p>11-1</p>	<p>■熊本地震で職員を派遣している方の報告会というか、例えば広報しまだに掲載するとか、各自治会を周るとか、参考になると思います。静岡県では大きな震災にあった人間はいないので。 ■広報島田は毎月楽しみにして見させていただいています。内閣総理大臣賞も受賞して、本当に企画や内容が素晴らしいと思います。 ■熊本地震を見ると、多種多様な避難しているようです。車の中や、避難所、テントなどですが、平等に情報が入ってこないことや、熊本のように、物資の供給に偏りがあったので、FM島田を大いに活用して、災害の状況や物資の供給など情報を被災者に提供することが大事だと思います。</p>	<p>●広報での報告のための紙面を用意しているか即答はできませんが、少なくとも報告会の方はやります。すでにオファーがある自治会もありまして、そちらの方には、眞鍋危機管理監以下が伺って熊本の震災の教訓で、この地元を生かせることでお話をさせていただきますので、是非、出前講座のような形になると思いますが、危機管理部の眞鍋のほうに伝えてもらいたいと思います。眞鍋は自衛隊から来た人間ですけれども、危機管理の専門家です。それぞれの地域にどんな災害が起こりうる可能性があって、どのようにそれを最低限の被害で済むようにできるのかということや、個別の案件で皆さんにご指導ご助言できますので、使っていただきたいと思っています。希望を言ってください。その日にお伺いします。 ●FM島田は、元々できたところの目的は、災害時におけるコミュニティに決めた細やかな情報を出すためです。島田のどこに行けば水があって、食料がもらえるのか、どこに避難すればいいのか、避難している人同士の情報を含めて決</p>

		め細やかな情報を流すことを目的としてFM島田をつくっています。できるだけ普段から聞いていただくリスナーを増やして、発災時には、FMが頼りになるよと思っていただけるようにこれからも広報に努めたいと思います。
11-2	■ 5月24日に第一回目の会合がありますでしょ。防災委員長会議が。	●その時に報告させます。それを地元に伝えてください。
12	■主要地方道（私道を除いて）より、自動車等の乗り入れの件道路側溝（暗渠含む。）部の切り下げの要望がある場合、窓口はどこか。 ※現在、各自が鉄板、樹脂製（プラスチック等）、木材等にて段差の解消をなくし乗り入れています。歩行者、自転車等、第三者への危害が予想されるので。	●段差を解消し、個々のお宅への出入りを容易にするための切り下げ工事については、現場の状況にも因りますが、原則、市道の場合は土木管理課に、県道であれば、島田土木事務所維持管理課に工事の承認申請をすることで可能となりますのでお問い合わせください。 御懸念されるとおり、鉄板や市販のスロープは、道路管理者の立場から申し上げると不法占用にあたり、設置してはいけないこととなっています。道路交通法の改正で自転車は原則車道を通行することとなりましたが、このスロープや鉄板を避けるため、一時的にはみ出した自転車が自動車と接触事故を起こし、高校生が亡くなるという事故も発生しています。この事故を受け、島田高等学校をはじめ、市内の高等学校から撤去して欲しいとのご要望もいただきましたので、昨年、島田土木事務所と共同で県道、市道への設置をしないよう注意喚起のチラシも配布したところです。ホームセンターなどで容易に手に入ることから、安易に設置される方がいらっしゃいますが、市としましては今後も適切な指導に努めてまいりたいと考えています。
13	■ごみの収集について 飲食店、惣菜店等、業務で使用した食用油、しょうゆ等の18リットル缶が出されています。この場合の指導方法は。	●店舗等業務で使用した18リットル缶（いわゆる1斗缶）は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律で、産業廃棄物と定められています。 このため、本来であれば、市の集積場に出すことはできません。 排出者等が判明できるようであれば、市（環境課）で適正な処理について指導をさせていただきます。 （なお、市では不燃ごみを有価（平成28年4月現在、1.2円/kg）で売却しております。）
14	■昨今、多くの自治会で、自治会長の選任に苦勞しているとの話を聞きますが、大井町でも御多聞に漏れず、大変苦勞しました。 第一の原因と思われることは、市役所がらみの、会合とか用事が昼間に行われるため、勤め人が受けにくいという面があると思います。 現在、65歳から、70歳位まで勤める方が多く、定年で年金暮らし等で時間的に余裕のある方は、70歳以上になってしまいます。	●自治会長様には、この自治推進委員連絡会議をはじめ、市で所管する様々な審議会、委員会、協議会に御出席いただいており、日ごろからお忙しいお立場の中で御出席いただいておりますことにお礼申し上げます。 このような中、高齢化が進む現状において、各自治会の皆様には、自治会長をはじめ、自治会役員の御選出に御苦勞されていることは市としましても十分に認識をしているところです。 御質問のありました、市が開催する会合につきましては、若い人たちの世代に、この街を引き継いでいくことが重要であると認識しており、50代の若い人たちにまちづくりや公共的な様々な事業、行政のことや地域に関心を持ってい

	<p>役所の勤務時間の関係で、難しいとは思いますが、ご配慮くだされば改善できると思います。</p> <p>逆に高齢に自治会長は、夜の会合は辛いという方もありますが、二部制にする等工夫はないでしょうか。</p>	<p>ただき、地域の課題解決などに行政と共に取り組んでいただける若い人たちを育成していきたいと考えております。そのために、例えば市は、審議会、委員会、協議会などの委員の皆様について50歳以下の方を半分入れるように取り組んでおります。</p> <p>こうしたことから、審議会、委員会、協議会などは夜間に実施することが多くなる傾向にあります。</p> <p>なお、会議を二部制にするにつきましては、審議会、委員会、協議会などは、主にその会議において委員に皆様に御協議いただき、協議事項を決定する内容のものが多いため、二部制にすることは馴染まないと考えております。</p> <p>いずれにいたしましても、審議会、委員会、協議会で構成される委員の皆様は、御負担にならない開催方法を選択していく必要があると考えております。</p>
<p>15</p>	<p>■島田市創生5ヵ年計画（島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略）の進捗状況の中で、主な施策12項目あるが、1年過ぎた。うまくいきそうなものは？大変そうなものは？現在の市長の率直な思いは？</p> <p>また、予算の兼ね合いから見ていかがか？</p>	<p>●昨年10月に策定した島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、2060年の人口目標を8万人とし、今後5年間の目標及び施策を定めています。市では、昨年度、この総合戦略を基に、様々な事業に取り組んで参りました。</p> <p>例えば、市内で新たに創業、新事業を開始する方への事業費の一部を補助する「島田市で創める新ビジネス応援事業」や、県外から市内へ移住し、住宅を取得する方に奨励金を交付する「移住・定住促進事業」、さらに、男女の出逢いの機会を有意義にするための「出逢いのチカラ塾」や、親同士の交流会である「親婚活事業」などです。</p> <p>これらの平成27年度事業の検証や評価、また、総合戦略の主な施策ごとに設定されている数値目標（KPI）による進捗状況等の検証については、今後、実施する予定としています。</p> <p>この検証結果等については、ホームページ等により市民の皆様へもお知らせさせていただきます。</p> <p>国は、人口減少社会への対策を喫緊の課題と捉え、「まち・ひと・しごと創生」を旗印に掲げ、地方に「しごと」をつくり、「しごと」ができると「ひと」が集まり、「ひと」が集まれば「まち」が賑やかになる、こういった流れを地方に呼び起こすことを強く推し進めています。</p> <p>しかしながら、その財源となる国の交付金の予算は前年度を下回り、次年度以降も不明な状況です。</p> <p>地方に知恵を競わせる時代の中で、自ら考えて真剣に取り組む自治体と、そうではない自治体との差が大きく開いていきますが、島田市は、島田市が持つ個性や魅力を活かし、わがまちにとっての総合戦略を考え、地方創生を推進し</p>

16	<p>■大井川緑地（矢崎計器の土堤道路下）の犬の散歩について伺います。</p> <p>過日、トリムコースを散歩していると（午後4時頃）、犬が吠えて私に向かってきたので、近くにいた飼い主に、「リードをつけたら」と言いましたら、「リードをつけても吠えますから」との返事。さらに「リードをつけるように看板もありますから」と言いましたら、「どこにそんな看板がありますか」との返事。私が、「今あなたが歩いてきたあそこに看板がありますよ」と言ったら、横を向いて行ってしまいました。</p> <p>その後も散歩をしながら見ていますと、夕方近く車で犬を連れてきた人も、散歩をしながらの人も、多くの方が、鉄橋（JR）近くの一角に来てはリードを外しているのを見かけました。</p> <p>確かに犬にとってはストレスの発散にもなるし、飼い主も犬を遊ばせてやりたいと言う気持ちも分からないわけではありませんが、看板を市として付けている以上、基本が守られるべきではないでしょうか？</p> <p>小さなお子さんに犬がじゃれて怪我というのは考えすぎでしょうか？</p> <p>もし、犬好きの方のこともと言うならば、時間帯、場所等を明確にして、ゆっくり遊ぶようにしたらどうでしょうか？</p>	<p>ていかなければならないと考えています。</p> <p>●大井川河川敷緑地は自由使用の場であり、誰もが自由に遊んだり、スポーツに親しんだりできる空間となっています。もちろん、犬の散歩にも利用していただけますが、道路や公園等と同じようにフン等の処理やリードを付けての散歩など、飼い主のマナーを守っていただくことが原則であります。しかし、一部の飼い主の中にはリードを外して散歩等を行っているケースが見受けられますが、飼い主のモラルの問題であり効果的な対応策は難しいところです。また、場所や利用時間帯を定める事については、利用者を制限することから難しいと考えます。河川敷を利用される方の中には、犬が苦手な方もいらっしゃると思いますので、これからも、看板や広報等によりモラルの向上を図り、安全で楽しく河川敷をご利用いただけるよう努めてまいります。</p> <p style="text-align: center;">ちくけん</p> <p>市では、「島田市畜犬取締条例」を制定し、特別な場合を除き、犬の放し飼いを規制しています。</p> <p>この条例第3条に犬の飼育者の責務として、「畜犬を係留しておかなければならない。」と規定しており、犬の飼い主は、人への危害を防止することを目的にリードを繋いで飼育しなければならないこととしております。</p> <p>これにより、散歩中の放し飼いも禁止されている行為であるため、広報やチラシ等で啓発を実施するとともに「散歩中はつなをつけよう」と書いた看板を作成し、要請があった場所へ設置しています。</p> <p>今後は、公園等の施設管理者と協議しながら、必要な箇所への看板の設置を積極的に推進していきたいと考えております。</p>
17	<p>■市民病院で盗難にあった場合の職員の対応について</p> <p>病院内で盗難にあった事に気づき、2日後に病院に告げました。職員に警察に連絡してもかまいませんと言われ、自ら警察に被害届を提出しました。※職員の態度が冷たいと思ったのかな？</p>	<p>●院内で盗難が発生した場合、原則として警察への届出は被害にあわれた方へお願いしております。特にこのたびのケースは、被害に遭われたご本人でなければ分からない状況があると思えたからです。勿論、捜査には最大限協力いたします。</p> <p>今回、ご連絡いただいた際、職員の対応についてご不快な思いをおかけしたとしたら、大変申し訳なく思います。指導してまいります。</p>
18-1	<p>■暗渠が可能な河川、地理の条件について。</p> <p>具体的な箇所は、電灯小路東側の大井神社に向かう開渠の河川で、高齢者や子どもが河川に転落することがあったため、以前、ガードレールの設置を考えたが、住民の自家用車止められなくなるなどの申出により断念した。暗渠であればそのような弊害もないと考えている。</p>	<p>●河川や水路については、その大小に関わらず、水がスムーズに流れるよう維持管理を行う必要があることから、基本的には開渠であることが望まれます。</p> <p>御質問のありました、暗渠が可能な条件につきましては、道路と並行して流れる比較的小さい水路等で、道路側溝として設置できる場合や、道路を拡幅する工事を行うにあたり、周辺の土地利用の状況から土地の買収が困難で水路用地を含めて道路を拡幅する場合等が考えられます。</p> <p>大井町地内の電灯小路東側の大井神社に向かう開渠の河川につきましては、</p>

		比較的大きな水路で水量も多く、また、並行する道路を通行する車両も限られていることから、現時点では水路を暗渠化することは難しいものと考えております。
18-2	■深さが80センチメートル。幅が2メートルで、通学路になっていて子どもが2回、高齢者が1回落ちています。	●深さが80センチメートル。幅が2メートルで、通学路になっていて、何人かの方が落ちているということになると何とかしなければいけないと思います。直接担当に来させますので、自治会長さん聞いてやってください。他の河川ではネットをかぶせてあるところもありますので。自治会からの要望を文書で出していただく場合には、私も直接受け取りますし、その関連する課の担当者をチームにして現地を見せていただいております。現地を見せていただいて、行政がどう対応できるかということを書きで回答をさせていただいておりますので、今後も必要なことがあれば、自治会長さんを通して行政の方に上げていただければありがたいと思います。

※ 回答は全て市長から回答した。

#### ④その他（市長から）

・私、この5月で市長になって3年になります。選挙の時に30項目お約束したことがございます。この実施状況、マニフェストの進捗状況を今月の15日にホームページ上に公表いたします。市役所でも見ていただけるようにペーパーでも用意いたします。30項目中、未着手のものはゼロ。検討中のものが2つ。継続実施のものが23。すでに完了したものが5つということで、実施率は93.3%という状況でございます。この3年間に何をやってきたかという細かい資料をつけたものを公表しますので、見ていただければありがたいと思います。

#### ⑤当日の様子



⑥検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）																																																						
4 検討事項1	<p>●自治会関係の補助金の額は手元に資料がありませんので、後日自治会長さんを通じてお知らせします。【検討事項1】</p>	<p>■自治会・町内会に関係する補助金等の総額（予算額）は次のとおりです。※自治会ではない団体分も含まれます。</p> <table border="1" data-bbox="1223 375 2056 1093"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>担当課</th> <th>H28年度 予算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>自治会活動推進手数料</td><td>協働推進課</td><td>32,610,000</td></tr> <tr><td>自治会合併補助金</td><td>協働推進課</td><td>100,000</td></tr> <tr><td>自治会役員女性参画推進奨励補助金</td><td>協働推進課</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>ガンバル自治会地域活動補助金</td><td>協働推進課</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>防犯灯電気料金補助金</td><td>協働推進課</td><td>5,700,000</td></tr> <tr><td>防犯灯設置費補助金</td><td>協働推進課</td><td>8,000,000</td></tr> <tr><td>公会堂整備事業費補助金</td><td>協働推進課</td><td>13,124,000</td></tr> <tr><td>ポスター等掲示場設置事業費補助金</td><td>協働推進課</td><td>399,000</td></tr> <tr><td>自主防災組織育成対策補助金</td><td>危機管理課</td><td>12,000,000</td></tr> <tr><td>地域防犯活動補助金</td><td>生活安心課</td><td>900,000</td></tr> <tr><td>環境美化使用車両補助金</td><td>環境課</td><td>1,300,000</td></tr> <tr><td>環境衛生自治推進事務費交付金</td><td>環境課</td><td>1,209,600</td></tr> <tr><td>古紙等資源集団回収奨励金</td><td>環境課</td><td>9,615,600</td></tr> <tr><td>ごみ減量資源化推進事業奨励金</td><td>環境課</td><td>2,420,100</td></tr> <tr><td>観光振興支援事業費補助金</td><td>観光課</td><td>600,000</td></tr> <tr><td>河川愛護事業補助金</td><td>土木管理課</td><td>2,200,000</td></tr> <tr><td>地域敬老会実施事業費助成金</td><td>長寿介護課</td><td>16,964,000</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">合計 109,142,300 円</p>	名称	担当課	H28年度 予算額(円)	自治会活動推進手数料	協働推進課	32,610,000	自治会合併補助金	協働推進課	100,000	自治会役員女性参画推進奨励補助金	協働推進課	1,000,000	ガンバル自治会地域活動補助金	協働推進課	1,000,000	防犯灯電気料金補助金	協働推進課	5,700,000	防犯灯設置費補助金	協働推進課	8,000,000	公会堂整備事業費補助金	協働推進課	13,124,000	ポスター等掲示場設置事業費補助金	協働推進課	399,000	自主防災組織育成対策補助金	危機管理課	12,000,000	地域防犯活動補助金	生活安心課	900,000	環境美化使用車両補助金	環境課	1,300,000	環境衛生自治推進事務費交付金	環境課	1,209,600	古紙等資源集団回収奨励金	環境課	9,615,600	ごみ減量資源化推進事業奨励金	環境課	2,420,100	観光振興支援事業費補助金	観光課	600,000	河川愛護事業補助金	土木管理課	2,200,000	地域敬老会実施事業費助成金	長寿介護課	16,964,000
名称	担当課	H28年度 予算額(円)																																																						
自治会活動推進手数料	協働推進課	32,610,000																																																						
自治会合併補助金	協働推進課	100,000																																																						
自治会役員女性参画推進奨励補助金	協働推進課	1,000,000																																																						
ガンバル自治会地域活動補助金	協働推進課	1,000,000																																																						
防犯灯電気料金補助金	協働推進課	5,700,000																																																						
防犯灯設置費補助金	協働推進課	8,000,000																																																						
公会堂整備事業費補助金	協働推進課	13,124,000																																																						
ポスター等掲示場設置事業費補助金	協働推進課	399,000																																																						
自主防災組織育成対策補助金	危機管理課	12,000,000																																																						
地域防犯活動補助金	生活安心課	900,000																																																						
環境美化使用車両補助金	環境課	1,300,000																																																						
環境衛生自治推進事務費交付金	環境課	1,209,600																																																						
古紙等資源集団回収奨励金	環境課	9,615,600																																																						
ごみ減量資源化推進事業奨励金	環境課	2,420,100																																																						
観光振興支援事業費補助金	観光課	600,000																																																						
河川愛護事業補助金	土木管理課	2,200,000																																																						
地域敬老会実施事業費助成金	長寿介護課	16,964,000																																																						